

## 修了生の会 2022 年・2023 年活動報告

修了生の会は、2020 年度から 3 回にわたり開講された文化庁事業「ビジネス日本語研究会の知財を活用した就労者に対する初任日本語教師のための研修事業」を修了した会員たちによって 2022 年 3 月に発足しました。年 2 回の勉強会と懇親会を 2 回行っています。

### 【2022 年 7 月勉強会】

テーマ：修了生の会×ビジネス日本語研究会（コラボ勉強会）

「キャリアカウンセラー×日本語教師」

開催日時：2022 年 7 月 23 日（土）10:00～12:00

開催形態：オンライン（ZOOM）

講師：沖英子（東京外国人材採用ナビセンター）

浅海一郎（内定ブリッジ株式会社）

参加人数：49 名（修了生の会 7 名、ビジネス日本語研究会 16 名、両方に所属 26 名）

文化庁研修を通して日本語教師の可能性・役割の広がり気づき、「キャリアカウンセラー×日本語教師」への関心が高まったことから、招聘講師が外国人留学生の就職支援の最前線を紹介。日本語教師は留学生の就職活動の際、志望理由の添削を行います、それは教師が考える正しい日本語にはなっているものの、「過調整」になっているのではないかと指摘があり、ZOOM のブレイクアウトルームで「過調整」についてグループで話し合いました。事後アンケートからは、「単に日本語だけでなく、学習者の価値観や仕事への思いも添削することがあった、日本語学習を教室の中だけで考えてしまう危険性があり広い視野を持つことが大切だ。」という意見などが出されました。

### 【2022 年 10 月勉強会】

テーマ：「キャリアカウンセラー×日本語教師」2

開催日時：2022 年 10 月 29 日（土）10:00～12:00

開催形態：オンライン（ZOOM）

発表者：渡辺若菜（立命館太平洋アジア大学）、横田泰枝（1 期生、都内日本語学校）

参加人数：26 名（修了生の会 3 名、ビジネス日本語研究会 6 名、両方に所属 17 名）

7 月の勉強会の続編として、大学・日本語学校で教えているキャリアコンサルタント資格保持の会員の発表により、知見を深め、参加者それぞれの現場を重ねて意見交換の場としました。この資格を取得したことで、普段の授業でもキャリアを見据えた活動ができることに気が付いた、異業種の方とのネットワークができたという発表があり、グループディ

スカッションでは「明日から自分が実際にできそうなこと」をテーマに意見交換を行いました。事後アンケートからは、「学生が自分自身を深く分析して客観視するためにどうするか」の視点はとても重要。今の外国人就労者が置かれている就労現場の課題を正しく認識する努力も必要だと思う。」という記述などがみられました。

### 【2023年3月懇親会】

開催日時：2023年3月4日（土）10:00～12:00

開催形態：オンライン（ZOOM）

参加人数：60名

文化庁研修3期生を迎え、修了生の会登録者が126名となったことから、修了生の会の目標・活動方針・2023年活動計画を共有し、今後の積極的な参加を促しました。「テーマ別トークルーム」として各ブレイクアウトルームで、①採用情報・スカウト ②資格・試験とキャリア ③日本語教育以外での活躍の場 ④日本語教師の仕事の広げ方 ⑤SNS・ICT等の実践報告 ⑥実践報告～研修その後～ ⑦育成を「支える」仕事、についてミニレクチャーと意見交換を行いました。事後アンケートからは、「SJという分野に様々な広い可能性があることを実感できた。志を一緒にする仲間が全国・世界にいるというこのネットワークは何にも代えがたいものだと思う。」という意見がみられました。

### 【2023年7月勉強会】

テーマ：「プラットフォームとして SJ 教育にかかわっていくために、現場が求めていることを知ろう」

開催日時：2023年7月23日（土）10:00～12:00

開催形態：オンライン（ZOOM）

発表者：絵野沢采子（2期育成生、ベトナムで企業の人事労務等の業務を担当）

田中菜見子（1期生、2期育成生、3期講師、関東地方の製造業で人材開発育成等を担当）

参加人数：45名（修了生の会16名、ビジネス日本語研究会8名、両方に所属21名）

プラットフォームとして、SJ指導者として必要不可欠な知識・能力を身につけるために何をすべきか。そして、日本語教師と企業の距離を縮め、現場の課題を蓄積し、企業により良い日本語教育を提示できるようにするための方策を会員間で考えました。

1つ目のテーマは、「企業が求める就労者になるためのコミュニケーション力をどのようにつけていくか～愛され就労者になるための『コミュカ』指導～」。日本人が外国人日本語話者に感じる「ちょっとした違和感」をなくし「コミュカ」をつけるために、どのような指導をすればいいか、BORによるグループディスカッションで考え、意見を共有しました。

2つ目のテーマは、「企業内日本語研修カリキュラムの作成にあたり、『日本語教師は企業へ何をヒアリングすればよいのか』について考える」。企業内日本語教育は会社・担当者が持つニーズをどのように研修機関に伝えるかが、日本語カリキュラム設計上重要となります。そこで、日本語教師が、企業からの依頼で初めて日本語研修を導入する際、カリキュラム設計のために誰にどのような内容と方法でヒアリングを行うかを考えました。そこから、関係作り等多くの担当者との連携が必要であること、指導内容の取捨選択も重要であることが紹介されました。事後アンケートからは、「他のグループのシートを見ることで、別の視点があらたな気付きとなり勉強になった。お互いの経験や知見、考えを持ち寄ることで、みんなで切磋琢磨できる環境がとてもありがたいと思った。」という意見などがありました。

### 【2023年12月勉強会】

テーマ：「就労者向け日本語教育に必要なヒアリングを体験してみよう 企業（技人国・実習生）」

開催日時：2023年12月2日（土）10:00～12:00

開催形態：オンライン（ZOOM）

参加人数：25名（修了生の会22名—うち両方に所属21名、ビジネス日本語研究会3名）

2023年度勉強会は「企業を知ろう、ステークホルダーを知ろう」をテーマに進めてきましたので、今回も、現場の課題を知り、それを自分たちの中に蓄積して、ニーズに沿ったより良い日本語教育が提案できる力をつけることを目的としました。企業へ研修内容を決定するためのヒアリングの際は、どのような項目を出し、何を優先的に聞き、どのような態度で臨めばいいかをロールプレイで体験しました。また、ヒアリングミニ講座として、國井久美子（3期生）から「企業にどのようにヒアリングしていけばいいかのコツ」が紹介され、企業にヒアリングの場にメリットを感じてもらえるよう、目的を明確に伝え、魅力ある提案ができるよう準備して臨むことを確認しました。1回目のグループディスカッションでは、ヒアリングの順番、優先順位などを確認して練習を行い、2回目では、幹事などが企業担当者役になり、IT企業3チーム、製造業2チームでヒアリングロールプレイを行いました。30分という限られた時間で、ヒアリングの目的を伝え、会話のキャッチボールができるように各グループで工夫を重ねました。振り返りや事後アンケートからは、「他のメンバーがどのように質問しているのかを観察することで、問題点や必要な情報を具現化できた。振り返りの際の気づきも貴重な体験になった。テーマが実践的な内容であり、企業の実例が聞け、日本語研修を運営するうえで大切なポイントに気づくことができた。」という気づきが見られました。

文責 北内直子